

四日市笹川団地散策と Viva あみーご日本語教室見学

2021年3月30日(火)

沢田ラブリー

三重県四日市市のあすなろう鉄道西日野駅から川沿いに歩いて坂に登ると笹川団地が見える。笹川団地は、日本に出稼ぎなどの理由で訪れる外国人、主にブラジル人が多く住んでいる。近くには藤川さんが働いている小学校があり、その小学校は新一年生の50%以上が外国のルーツを持つ子供であった。私たちは、その笹川団地にある Viva あみーご日本語教室を見学した。コロナ禍の状況もあり、対面とオンラインで活動していた。Viva あみーごでは、主に南米の人が多く参加しており、仕事終わりの夜の時間帯で活動している。また、夏祭り、親子で日本語教室などの様々なイベントを開催しており、地域に根付いている印象を受けた。私は、ブラジル人の女性の参加者の1人に参加している理由を尋ねてみたところ、自分が仕事する上で日本語が話せることが必要なため日本語を習っているとおっしゃっていた。私は今まで日本語教室を通うのは子供のイメージがあったが、日本で暮らすには大人も仕事や生活する上で日本語を話せないと、できることが制限されたり、仕事の幅が狭まったりするので、大人こそ日本語教室が必要であると思った。

また、私の母は外国人である。日本語教室に通いたいか聞いたところ、日本語教室に通いたいとは言っていたが、同時に日本語教室は母にとって遠い存在なのかもしれないと思った。例えば、私は小さい頃に英会話教室に通ったことがあるが、将来仕事に就くとき英語が役に立つからという理由で通っていた。英会話教室はビジネスや留学などの教養目的で通う人が多いと思う。日常会話目的で通うのはごく少数のイメージだ。多くの外国人は、日本語教室に通わなくても今まで通り暮らしていくことができるし、今更歳をとってから通うのも遅いのではと考える人がいると思う。外国人が日本語教室に通うのはなにか動機がないと通えないのかもしれない。そして私の母は、大人向けの日本語教室の存在があるのかわからなかった。母の周りの外国人の友達も通っている人はいないし、そもそも情報を得るには日本語を使うからである。母は日本語教室を知る機会が今までなかったのだ。私の母以外にも情報を得る機会がない外国人は多くいると思う。SNSでの情報発信だけではなく、Viva あみーごの夏祭りなどのイベントを通して SNS 以外でも日本語教室の活動を伝えることは大切だと考えた。日本語教室の存在を知る機会を増やすことができれば、多くの外国人にとってメリットになるだろう。日本語教室の見学を通して、日本語教室を取り巻く外国人の現状を考えるきっかけになり、とても貴重な経験ができた。